

バルセロナ

2025. 4. 22

バルセロナに行ったことがある。スペイン、カタルーニャ地方の中心地であり、世界的にも有名な観光地である。もう20年以上も前になる。イタリアにいた3年目だった。あと数か月後には、日本に戻るというイタリアでの最後の冬休みだった。イタリア以外の国を訪れる最後のチャンスだった。目的地を考えた。スペインとポルトガルを選んだ。

スペインといっても、首都であるマドリードには行っていない。バルセロナが中心である。サグラダ・ファミリアを見たかった。アントニ・ガウディの建築物にも興味があった。広場には、大きなクリスマスツリーがあった。季節は冬である。バルセロナは、冬でもそれほど寒くはない。長男は、まだ4歳だった。4月に生まれた長女は、生後9か月だった。気候的なことも考えたのかもしれない。彼女は、赤ちゃんのままで飛行機に乗せられ、旅をしたことになる。

バルセロナは、イタリアともドイツとも違った。デンマークやオーストリア、スイスとも違う。国が違うのだから当たり前なのだが、違うことが魅力の一つだった。言葉は、イタリア語と似ている。これも当たり前なのかもしれない。昔は、同じ一つの国だったのだから。適当にイタリア語で話してみると、思いの外、通じた。

カトリック教会のバジリカであるサグラダ・ファミリア、聖家族教会は、世界遺産であり、いくつかある塔の中で一番高いキリストの塔が、まもなく完成すると言われている。100年以上経った今も建築工事は続いている。このようなことは珍しいことではない。ヨーロッパにある大聖堂や日本のお寺や神社なども、数百年をかけて完成したものもある。イタリア、ミラノの大聖堂は、5世紀もの歳月をかけて出来上がった。

サグラダ・ファミリアを20年以上も前に見に行ったわけだが、当然の如く建築中だった。とにかく大きかった。これが、あのサグラダ・ファミリアか。天才アントニ・ガウディが考えたものか。常人では考えも及ばない建物に思われた。他にも、アントニ・ガウディが遺した建築物をいくつか見てまわった。どれも異彩を放っていた。バルセロナは、ガウディの街でもある。

あの頃は、勉強不足だった。バルセロナと美術館が結び付いていなかった。バルセロナは、芸術の街である。ピカソ美術館、ミロ美術館をはじめ、いくつもの美術館や博物館がある。失敗だった。美術館にも行っておくべきだった。予習不足である。あの頃は、まだ美術、特に絵画作品に目覚めてはいなかった。絵画を見つめるようになったのは、日本に戻ってきてからである。イタリアにいるときに、絵画を見る目があつたらと思うと、自身の浅学を嘆くしかない。

バルセロナは、魅力に溢れた都市である。機会があれば、また訪れたい。今度は、美術館巡りもしてみたい。そして、キリストの塔を仰ぎ見たい。